

令和 7 年度 富屋小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな心と健やかな体を持ち、自ら考え進んで学び、次代をたくましく生きる児童の育成

(2) 具体目標(具体的な児童生徒像など) 富屋の子:元気・根気・思いやり

○元気でやりぬく子 ○自分で考え進んで学ぶ子 ○仲間のために考えはたらく子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

—地域に根ざし、児童が生き生きと活動する学校の創造—

富屋地区の特性は、恵まれた自然、豊かな歴史と文化、地域の人々の強い絆である。これらを基盤とした「潤いと活気あふれる学校づくり」に取り組み、児童が郷土を愛し、自立して力強く生きていくための「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育むことを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 基礎・基本の確実な定着を図り、学ぶ意欲の向上・主体的に学ぶ態度の育成を行う
- (2) 学習課題をはっきり理解させる見通しを大切に「わかる授業」のより一層の充実
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、自ら見通しをもって学びに向かう児童の育成
- (4) GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末を、日常的に活用できることを前提とした、端末を使用して教科の学びを深め学びの本質に迫るための授業の工夫・改善
- (5) 道徳科の授業や体験活動を中核に、自他の生命を尊重するとともに、感謝や思いやりなどの豊かな心を育成するための教育活動の推進と、規範意識や人権意識の醸成・いじめを生まない指導の充実
- (6) 基本的な生活習慣の確立と社会性の育成を図る児童指導の充実
- (7) 自信や意欲、自己有用感を育成するための児童一人一人のよさを認め励ます教育の推進、及び居がいのある温かい雰囲気のある学級経営等による、新たな不登校を生まない支援の充実
- (8) 自らの健康を大切にする能力や態度、及び自己の安全を守る資質や能力の育成
- (9) 地域の特性や教育力を生かした連携・協働による特色ある教育活動の一層の推進
- (10) 地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進(地域はみんなの学校)
- (11) 一人一人が自らの未来を見つめ持続可能な社会(SDGs)の実現に向けた担い手となることを育む教育の推進
- (12) 勤務時間を意識したり、校内業務の適正化を図ったりするなど更なる働き方改革を推進するとともに、教育公務員としての使命感と誇りをもって、互いに高め合う協働的な同僚性の構築と自らの資質の向上に努める職員研修の充実

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

「未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園」

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

・国、県、市の方針を受け、本校教育目標達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省等を踏まえた編成

【晃陽地域学校園教育ビジョン】

「未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園」

・基礎的・基本的な内容を重視しながら、創意工夫を生かした教育及び特色のある学校づくりを意図した編成
・カリキュラムマネジメントの視点のもと、教育活動全体を通して学校教育目標が達成されるような編成

(2) 留意事項等

- ・教育課程全体のバランスを図りながら、学習指導要領のねらいが実現可能な、指導時間の十分な確保
- ・問題解決的な学習や体験的な学習を推進することによる主体的・対話的で深い学びの実現と、思考・判断・表現等を促す、授業をコーディネートする教師の力の向上
- ・学習形態の工夫や教師の専門性を生かした授業交換の推進、ICTの効果的な活用による、個に応じたきめ細かな指導の充実
- ・道徳科の授業の充実による、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成及び人権意識の醸成
- ・外国語を通じて言語や文化についての体験的な理解と、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ・総合的な学習の時間のねらいに即した、本校の特色を生かした横断的・総合的な学習や探求的な学習の推進と、指導の充実によるSDGsや人権、主権者教育やキャリア教育等今日的な諸課題に対応していくための資質・能力の醸成
- ・相互関連が十分配慮された特別活動の実施と、生活上の課題解決に自ら取り組むことができるような指導の充実
- ・国語を中心とした全ての教科領域等で言語活動の充実を図るための「書くこと」に対する資質・能力の育成
- ・すべての教育活動を通じた、互いに認め合い励まし合おうとする好ましい人間関係の構築と生活指導の充実、及び「宮っ子の誓い」の意識化、実践化
- ・県・市の人権教育基本方針に基づいた、人権尊重の理念に基づいた人権教育の推進
- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえた運動の日常化のより一層の充実と健康で安全な生活を送ろうとする態度の育成
- ・自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するための、交通安全教室や避難訓練、また外部講師による教育講話会等の効果的な実施
- ・AI型学習ドリル等の計画的・効果的な活用による、個に応じた基礎的・基本的「知識・技能」の定着
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実践と、インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の推進
- ・「宮・未来キャリア・パスポート」や「宮っ子『夢』事業」の活用による、自身の夢や目標を実現しようとする意欲や態度の育成
- ・地域に根ざした総合的な学習の時間「富屋ふるさと学習」や「宇都宮学」の推進による、地域を愛し、大切にしていこうとする態度の醸成

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営:学校・家庭・地域の連携体制を基盤とし、地域に根ざした信頼と人権意識の向上を目指した魅力ある学校づくりの推進【創意工夫と活力ある教育活動の展開】
- (2) 学習指導
 - 基礎基本の定着と学力向上を目指す学習指導の改善及び児童の学習習慣の形成
 - ・自分の考えを書くことを中心とした様々な形で表現する中で、学び合う児童を育てるための授業の工夫
- (3) 児童生徒指導
 - 生命の尊さを理解し、思いやりの心をもって正しく判断し、たくましく行動することができる児童の育成
 - ・心の教育の充実により自信や意欲・自己有用感・たくましさ・あきらめない心・おもいやり・規範意識等の豊かな心の醸成
- (4) 健康(体力・保健・食育・安全)
 - ・生涯にわたる健康的で安全な生活習慣を身に付け、積極的に運動に取り組み、進んで体力を高めようとする児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① ICTを活用した教材・教具の工夫や, 各教科における話し合い活動の場の設定を積極的に行い, 友達と協力して学び合う態度を育成する。</p> <p>② 主体的, 対話的で深い学びを具現化するため, 学習活動の中で自分の考えをもち表現する場の設定を工夫する。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 91.4% 教職員 100% ・上学年においては, タブレットを効果的に活用することにより, 自分から学習に取り組む態度が向上したとともに意見の共有を通して協力して学び合う態度が身に付いてきた。 ・少人数やペア学習においては, 自分の意見を話せる児童が増えてきた。</p> <p>【次年度の方針】 ・ICTを日常的に活用するよう支援する。 ・学習活動の中で, 自分の考えを表現する機会を増やす。「話す聴く書く」の基本的な学習スキルに加え, タブレットなどを用いた多様な表現方法を提示し, 個に応じた表現が行えるような場面を作る。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 縦割り班などの他との交流を深める活動を取り入れ, 活動内容について話し合うなどして相手の立場を考えて思いやる心を育む。</p> <p>② 道徳科の授業や人権教育を通して, 相手の立場を考え, 人を思いやる心を育てる。</p> <p>③ 人権教育年間活動計画に基づき, 全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 95.2% 教職員 100% ・縦割り班活動や特別支援学校, 地域の方との交流活動を行ったことで, 様々な人と関わる事ができた。 ・道徳の授業で相手を思いやる行動について考えたことで, その後の思いやりのある行動へとつながった様子が見られた。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳科の授業や人権教育を通して, 相手の立場を考えて活動する取組を継続していく。</p>
	<p>A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき, 児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や望ましい勤労観や職業観を, 全教育活動を通して意図的・計画的に育み, 保護者や外部講師等から話を聞く機会を設ける。</p> <p>② 児童が粘り強く取り組む力を育てるために, 各教科の授業や行事に児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</p> <p>③ キャリアパスポートを有効活用するとともに, キャリアパスポートの趣旨を周知し, 家庭への啓発に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 児童 96.2% 教職員 100% ・児童が目標をもって取り組む機会を設けたり, 目標の達成に向けて努力している児童を教師が見取り, 称賛したりするように努めた。</p> <p>【次年度の方針】 ・粘り強く取り組める児童の育成のために, 目標を設定する場面や達成するために頑張る機会を設定し, 目標達成に向けて努力する児童を育成する。 ・総合のキャリア教育の時間における勤労観や職業観について, 引き続き外部講師等に話を聞く機会を設ける。</p>

1- (3)
健康で安全
な生活を実
現する力を
育む教育の
推進

A4 児童は、健康や安全に
気を付けて生活してい
る。
【数値指標】
全体アンケートにおける
肯定的回答
⇒教職員 85%以上
⇒保護者 85%以上

- ① 児童が自分の健康を管理できる
よう、養護教諭や栄養教諭と担任が
連携した保健指導や給食指導、日常
の生活指導を行う。特に、メディア
の使い方について健康面での指導
を継続するとともに姿勢の指導を
強化する。
- ② 健康を意識した望ましい食習慣
の形成を図るために、栄養教諭と担
任が連携した給食指導やアンケー
トを活用した食育だよりでの啓発
を行う。
- ③ 交通安全教室、避難訓練等を計画的
に実施し、事前事後の指導を丁寧
に行うと共に、登下校の指導を取り
入れる。また、児童と教師が共に行
う安全点検を行う機会を設けるな
ど安全教育の充実を図る。

【達成状況】
教職員 94.3%
保護者 95.3%
・お便りや掲示物、会議等で健康に関す
る情報を発信し、教職員・保護者共に数
値指標を達成した。
・保健だよりでは、保護者に対して姿勢
について啓発し、給食時にマナー指導と
して姿勢についての指導を行った。保健
室の前にメディアの使い方に関しての
掲示物を作成した。今後も継続して指導
していく必要がある。
・お弁当の日などに担任の先生と協力
し、望ましい食習慣の形成を図れた。ま
た、アンケートを活用し、食育だよりで
の啓発も行った。
・交通安全教室、避難訓練等を計画的に
実施すると共に、事前事後の指導を丁寧
に行った。また、一斉下校の機会には、
登下校における安全指導を行った。さら
に、児童と教師が共に行う安全点検を行
う機会を設け、安全教育の充実を図つ
た。

【次年度の方針】
・引き続き、養護教諭や栄養教諭と担任
が連携した保健指導や給食指導、日常の
生活指導を様々な形で行い、情報を発信
していく。また、メディアの使い方と共
に、さらに姿勢指導を継続して強化して
いく。
・交通安全教室、避難訓練等を計画的に
実施すると共に、事前事後の指導を丁寧
に行った。また、一斉下校の機会には、
登下校における安全指導を行った。さら
に、児童と教師が共に行う安全点検を行
う機会を設け、安全教育の充実を図つ
た。

1- (4)
将来への希
望と協働す
る力を育む
教育の推進

A5 児童は、自分のよさや
成長を実感し、協力して
生活をよりよくしようと
している。
【数値指標】
全体アンケートにおける
肯定的回答
⇒児童 85%以上
⇒保護者 85%以上

- ① 児童の自己肯定感を高められる
よう、縦割り班活動を取り入れ、振
り返りの時間を設定し、児童相互に
認め合う場を数多く設けるととも
に、教職員も認め励ます指導に努め
る。
- ② 道徳や特別活動の時間を中心に
児童の自己肯定感の育成を図る。
- ③ 学級では自分の立場や役割を明
確にして互いに協力できる場を設
定するなどし、互いのよさや成長を
認め合えるような機会を増やす。

【達成状況】
児童 94.3%
教職員 100%
・道徳や帰りの会などで友達のよさを
伝え合う活動を行ったことで、児童の自
己肯定感が高まった。

【次年度の方針】
・教職員が学校全体の児童に目を向け、
人権に配慮した日常の基底的指導に努
める。
・学級でよさを伝え合う場を本年度以
上に意図的に設ける。

<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 外国語活動を通じて、言語や文化 についての体験的活動を意図的に 増やし、ALT と交流する中でコミュ ニケーションを図ろうとする態度 を育成する。 ② 校内の掲示物で「今週使ってみ たい英語」などを作成し、英語を身近 に感じ、教室でも日常的に簡単なや りとりを取り入れられるようにす る。</p>	<p>【達成状況】 児童 78.1% 教職員 100% ・昨年度より、児童の数値目標は上が っており、ALT との交流の機会も増えてい る。英語に限らず積極的に人と関わろう とする意識には、個人差が見られる。 ・掲示物の作成はできていなかった。 【次年度の方針】 ・休み時間など、授業以外で ALT と関 わる場を意図的に設定する。 ・英語や外国語活動の授業で、各学年の 発達段階に応じた挨拶の定例文を活用 し、授業の導入で簡単なやりとりを取 り入れ、英語に親しむ機会を増やす。</p>
	<p>A7 児童は、宇都宮のよさ を知っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教員 85%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の 時間の授業における「宇都宮学」や、 市内や地域での校外学習等におい て、学習内容に関連させながら児童 が身近な地域や宇都宮市のよさに 気付く指導に努める。 ② 教師自身が身近な地域や宇都宮 市の歴史、文化、伝統産業、特産物 等について理解を深められるよう に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童 89.5% 教職員 100% ・生活科の町たんけん、社会科の校外学 習、総合的な学習の時間の授業におけ る「宇都宮学」の学習において、学習内 容に関連させ、体験活動を十分に取 り入れることで、児童に身近な地域 や宇都宮市のよさに気付かせること ができた。 【次年度の方針】 ・引き続き生活科、社会科、総合的な学 習の時間を活用し、学習内容に関 連づけ、校外学習等の体験活動を通 して、宇都宮市のよさに気付く指 導を充実させる。</p>
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケートにおける 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 児童がタブレットや情報通信ネ ットワーク等の情報手段に親しみ、 適切に活用する能力を育成でき るよう、授業において ICT 機器を目的 に応じて効果的に活用する機会を 増やす。 ② 教師の授業力向上のために、教職 員のだれもが取り組みやすい ICT 機器を活用した授業を実践するた めの研修を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童 94.3% 教職員 100% ・授業のねらいを達成するために、ICT 機器を適切に活用するよう意識して授 業を実践することができた。 ・読書の時間や図書館司書による読み 聞かせの時間、図書便りの発行等を通 して、児童の読書意欲を喚起するこ うできた。 【次年度の方針】 ・教師の授業力向上のために、教職員 のだれもが取り組みやすい ICT 機 器を活用した授業を実践するための 情報共有を行う。 ・学級懇談会などで ICT 及び図書資 料等を活用している様子を知らせて いく。</p>

<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 委員会活動を通して、教職員と児童が共に活移動する中で、「持続可能な社会」についての知識を深め、自然や環境に関する各教科領域における学習の充実を図る。 ② 各種たよりのデジタル化により、資源の節約に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童 93.3% 教職員 93.8% ・日常的な取り組みにより、「持続可能な社会」への関心をもっている児童が増えてきた。 ・学校生活での節電・節水などについては児童間で意識の差が生じている。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・委員会活動を中心に、教職員と児童が共に活動する中で、「持続可能な社会」についての知識を深め、自然や環境にとどまらず各教科領域における学習の充実を図る（人権教育との関連）。 ・各種たよりや打合せ等のデジタル化により、資源の節約に努める。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、校内支援委員会やケース会議を開き、特別な支援が必要な児童に対する共通理解を図って一人一人のニーズを踏まえた組織的な支援を行うと伴に、保護者との積極的な連携を行う。 ② 特別支援教育について、保護者へ分かりやすく伝える。（講演会やお便りなど）</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% ・数値指標は達成している。しかし、特別支援学級以外にも各学級内に特別な支援を必要とする児童が複数いるため、担任だけでは個に応じた支援の難しさがある。学校全体で情報共有し、組織的な対応を進めることができています。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・組織的な対応を強化し、保護者との積極的な連携を今後も継続する。 ・特別支援教育について、保護者へ分かりやすく伝える。（お便りなど）</p>
<p>3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 教育相談等を活用し、児童の気持ちに寄り添っていじめの早期発見につなげるとともに、児童同士がより良い関係を築ける学級づくりに努める。 ② 教育相談で、ICT機器を活用するなど児童及び保護者が教職員に相談しやすい環境を用意する。 ③ いじめが許されない行為であることや、お互いを尊重することの大切さを重視した学級経営に努めるとともに、いじめゼロ強調月間の取り組みや日頃の人権教育の指導内容について、学年便り等の各種便りや、HP等で公開するとともに、授業参観や懇談会なども活用するなど、保護者への周知方法を工夫する。</p>	<p>【達成状況】 児童 99.0% 保護者 82.5% ・児童は、いじめゼロスローガンを考え、自分事として捉えられるよう「いじめゼロ宣言」としてそれぞれが具体的なめあてを設定し、実践させたことで、いじめが許されない行為であるという意識を高められた。保護者へ学校で行っている取り組みや様子も児童指導だよりで周知したが、肯定的回答率を大きく高めることができなかった。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】 ・教育相談等を活用し、児童の気持ちに寄り添っていじめの早期発見につなげるとともに、児童同士がより良い関係を築ける学級づくりに努める。 ・教育相談で、ICT機器を活用するなど児童が教職員に相談しやすい環境を用意する。 ・いじめが許されない行為であることや、お互いを尊重することの大切さを重視した学級経営に努めるとともに、トラブルなどが起きたときには双方から話を聞き、必要に応じて保護者に連絡することで、問題を早期に解決することができるように努める。</p>

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、全職員で児童を認め励ます指導に努める。</p> <p>② 教育相談、Q-U調査、欠席状況調査等の結果を活用し、不登校傾向のある児童や保護者への対応について、全職員で共通理解を図り、組織的な対応をしていく。</p>	<p>【達成状況】 児童 98.1% 教職員 100% ・日々の学級や児童の様子について、全教職員が職員会議などで共通理解を図ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も、個々の児童の自己肯定感を高める声掛けをするとともに、互いを認め合える学級経営について学校全体で取り組んでいく。また、教育相談等を活用しながら、不登校傾向のある児童や保護者への対応について、全職員で共通理解を図り、組織的な対応をしていく。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 教育相談などを活用し、一人一人の児童理解に努めることで、個を認め望ましい学級集団づくりの充実を図っていく。</p> <p>② 教育相談で、ICT機器を活用するなど児童及び保護者が教職員に相談しやすい環境を用意する。</p> <p>③ 児童のよさを認め、称賛の機会を多く設定したり、児童の主體的な活動の充実にも努めたりする。</p>	<p>【達成状況】 児童 99.0% 保護者 91.4% ・ほとんどの児童が毎日登校し、全教職員が児童一人一人に目を向け、よさを認める関わりを続けることで、児童は明るく生き生きと学習や生活をしている。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童のよさを認め、称賛の機会を多く設定したり、児童の主體的な活動の充実にも努めたりする。 ・教育相談などを活用し、一人一人の児童理解に努めることで、個を認め望ましい学級集団づくりの充実を図っていく。 ・教育相談で、ICT機器を活用するなど児童が教職員に相談しやすい環境を用意する。</p>
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 授業のねらいや一人一人の課題を明確にして児童が考える時間を確保し、板書の構造化や振り返りを工夫して、児童の思考や理解を深める授業の実践を図る。</p> <p>② 学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や、個に応じた授業への取り組みの発信を、引き続き行う。</p>	<p>【達成状況】 児童 98.1% 教職員 100% ・集団での学習が難しい児童においても、かがやきルームの利用等で個別指導を行い、きめ細やかな指導を行ってきた。 ・授業のねらいや一人一人の課題を明確にしたり、児童の実態に即した授業展開を行ったり、振り返りやまとめ方の工夫をして学力向上に努めた。 ・学校全体が日々落ち着いた雰囲気での学習に取り組むことができています。 ・保護者の学校活動への協力的な姿勢がうかがえる。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業のねらいを明確にして児童が自分の考えをもつ時間を十分確保するなど、分かる授業を継続して行うことで指導の充実を図る。 ・学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や、個に応じた授業への取り組みの発信を、引き続き行う。</p>

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 学校の諸課題への対応や、学校行事の実施等に、かがやきルーム指導員や学校司書業務嘱託員、SC等の専門性を生かしながら、全教職員が一体となり取り組むよう努める。 ② 教職員一人一人の得意分野やよさを生かす組織運営に努め、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合いながら、同僚性を高めていく。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% ・各担任だけでなく、個々の教職員が小さな課題も自分のこととして捉え、打合せ等で情報を共有してきた。 【次年度の方針】 ・児童の問題を、一部の教員で話し合うのではなく、適切にケース会議の場を設け、SC等の専門の意見を生かしながら対応していく必要がある。 ・教職員のよさや能力を発揮できるよう校務分掌の適正化に努める。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 各種行事等の企画・運営及び授業・活動等においては、ねらいを明確にしながら、実施方法の工夫・改善を推進し、教職員の負担軽減を図っていくよう努める。 ② 各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進めるためにクラウド化を推進するなど教職員一人一人が負担の軽減を図っていくよう努める。 ③ 「リフレッシュウィーク」を意識することで日々の勤務時間を意識し仕事の効率化を図るよう努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 93.8% ・各種行事等の企画・運営及び授業・活動等においては、ねらいを明確にしながら、実施方法の工夫・改善を推進しようと試みたが、教職員の負担軽減につながった実感はなかった。 ・各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進めるためにクラウド化を推進するなど教職員一人一人が負担の軽減を図っていくよう努められた。 【次年度の方針】 ・各種行事等の企画・運営及び授業・活動等においては、ねらいを明確にしながら、より実施方法の工夫・改善を推進し、教職員の負担軽減を図る。 ・業務を効率的に進めるためにAIやクラウドを活用し、教職員一人一人が負担の軽減を図っていくよう努める。 ・各種行事等に合わせたリフレッシュウィークの時期や方法を検討していく。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室や修学旅行等行事での交流を行い、児童が中学校への期待をもつことができるよう努める。 ② 乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。</p>	<p>【【達成状況】】 教職員 100% 保護者 85.2% ・あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室等行事での交流を行い、児童が中学校への期待をもつことができた。 ・乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努めることができた。 【次年度の方針】 ・小中一貫や地域学校園での取り組みについて、保護者や地域に工夫して分かるように周知する。 ・乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。 ・各種便り等でHPにとべるリンクを貼り付け、保護者が興味関心をもってすぐに見ることができる工夫をしていく。</p>

<p>5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートにおける肯定的回答</p> <p>⇒保護者 85%以上</p> <p>⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 外部の人材や教育資源を有効に活用し、子どもたちの健全な育成を図る。(安全教育, 性教育, キャリア教育等)</p> <p>② 地域の人材や企業・施設等と連携した教育活動を推進する。</p> <p>③ 特別支援学校や高齢者施設等との交流活動やホタル愛護, 米作り, 民話活動等, 「ふるさと学習」の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>保護者 98.1%</p> <p>地域住民 100%</p> <p>・特別支援学校や高齢者との交流活動やホタル愛護, 米作り, 民話活動等, 「ふるさと学習」の充実を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・企業・施設等と連携した教育活動を推進するとともに, HP など保護者へ発信し, 周知する。</p>
<p>6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートにおける肯定的回答</p> <p>⇒教職員 85%以上</p> <p>⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。また、年2回児童とともに安全点検を行い、安全に対する児童の意識を高める等安全教育の充実を図る。</p> <p>② 時期に応じて、食物アレルギー研修や心肺蘇生法講習、熱中症や感染症予防対策等を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 100%</p> <p>保護者 96.7%</p> <p>・年2回児童と共に安全点検を実施し、安全に対する意識の高揚が図られた。必要に応じた迅速な修繕が行われ、児童にとって安心、安全な環境の中で学習や生活ができています。</p> <p>・保健指導管理表をもとに、教職員で共通理解を図り児童の安全管理に努めた。</p> <p>・夏季には、暑さ指数(WBGT)をもとにし、校内放送や電子掲示板を活用して熱中症予防を行った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き危険箇所について迅速な改善や修繕に努め、時期に応じて熱中症予防や感染症に対する予防に加え、危機管理マニュアルを活用し、食物アレルギー研修や心肺蘇生法講習を行う。</p>
<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートにおける肯定的回答</p> <p>⇒教職員 85%以上</p>	<p>① タブレット端末のより効果的な利用ができるよう、情報関連の校内研修を積極的に行う。</p> <p>② 研修を生かして授業参観や一人一授業等で ICT を活用した授業展開となるように工夫する</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 100%</p> <p>・ICT機器の管理や活用のための環境整備は行えた。</p> <p>・授業に活用するためのICT研修を行ったことで、職員の意識や能力の向上が図れた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・タブレット端末のより効果的な利用ができるよう、情報主任を中心とした校内研修を積極的に行う。</p> <p>・研修を生かして授業参観や一人一授業等で ICT を活用した授業展開となるように工夫する。</p>

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートにおける肯定的回答</p> <p>⇒教職員 85%以上</p> <p>⇒保護者 85%以上</p> <p>⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 児童会での活動内容を工夫し、児童が主体的にあいさつについて意識できる場を設けていく。</p> <p>② 具体的な場面でのあいさつの仕方について指導し、定着を図る。</p> <p>③ 家庭・地域と連携したあいさつ週間を継続し、意識の高揚を図る。</p> <p>④ 教師自らが積極的に児童に声をかけ、日常から誰にでも元気なあいさつができる雰囲気醸成する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 93.3%</p> <p>保護者 89.1%</p> <p>地域住民 93.3%</p> <p>・全体的には意識は向上しているが、個人差が大きく定着には至っていない。しかし、保護者の数値指標は昨年度よりも上がっていることから、学校外での時と場に応じたあいさつ等が少しずつ定着していることが考えられる。</p> <p>B</p> <p>・日常的に誰にでも挨拶をすることを心掛けられた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・地域学校園で取り組んでいるあいさつ運動から、あいさつへの意識を高めていく。</p> <p>・教師自らが積極的に児童に声をかけ、日常から誰にでも元気なあいさつができる雰囲気醸成する。</p>
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートにおける肯定的回答</p> <p>⇒教職員 85%以上</p> <p>⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 生活当番を中心として児童の生活状況を確認し、重点的に指導するべききまりを設定し、全職員で共通理解して、きまりについての指導に取り組む。</p> <p>② 「富屋小の生活のきまり」の中から重点項目を決め、ルールやマナーを指導し、定着を図る。</p> <p>③ 道徳の授業において、ルールやマナーに関わる項目を取り上げ、規範意識を高める指導を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 100%</p> <p>保護者 93.8%</p> <p>・達成状況は高かったが、雨天時や高温時の室内での過ごし方に課題が見られた。</p> <p>・生活当番を中心として重点的に指導するべききまりを月ごとに設定し、全職員で共通理解して、きまりについての指導に取り組んだ。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・児童の実態に応じて生活当番が中心となり、月ごとの生活目標を立てて指導する。家庭にも周知して、ルールやマナーに対する意識を高めさせる。</p> <p>・「富屋小の生活のきまり」について見直しを図り、雨天時や高温時の過ごし方等、ルールやマナーを指導し、定着を図る。また、道徳の授業において、ルールやマナーに関わる項目を取り上げ、規範意識を高める指導を行う。</p>
	<p>B3 児童は、地域のよさを理解し、様々な人々とのふれあいを大切に、地域に愛情と誇りをもっている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートにおける肯定的回答</p> <p>⇒教職員 85%以上</p> <p>⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 生活や総合の授業における「ふるさと学習」を推進し、自分の住む地域のよさを知るとともに、近隣施設等との交流を通して、多様な人々とふれ合う機会を設ける。</p> <p>② 地域の特徴を生かした総合的な学習や収穫祭等の内容を工夫し、様々な人々とのふれあいを深め、地域への愛着を深める。</p> <p>③ 学年だよりや学校だよりで、地域とのかかわりのある活動を保護者へ発信し、周知を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>⇒教職員 100%</p> <p>⇒保護者 90.5%</p> <p>・「ファイトとみや」や「収穫祭」、「ふるさと学習」などを通して、児童は地域の人とふれ合い、地域のよさを感じながら活動することができた。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・児童が、地域のよさを学ぶ機会を、継続的に設けていく。</p> <p>・学年だよりや学校だよりで、地域とのかかわりのある活動を保護者へ発信し、周知を図る。</p> <p>・今後も今年度同様に地域との活動を継続し、様々な人々とのふれあいを深め、地域への愛着を深めることができるようにする。</p>

	<p>B4 児童は生活の中で、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童 85%以上 教職員 85%以上</p>	<p>① 学期・年間の個人目標や学級の目標、各行事においてのめあての設定や振り返りの充実を図る。(キャリアパスポートの活用)</p> <p>② 「問い・見通し・課題解決・まとめ・振り返り」を基本とした授業の実践に努め、児童が見通しや計画の大切さに気付く指導に努める。</p> <p>③ 自分がやるべきことを考えて行動できるような指導に努める。</p>	<p>【達成状況】 ⇒児童 88.6% ⇒教職員 100% ・見通しをもって計画的に学習などを進めることについては、個人差が大きい。児童が見通しをもった学習を実感させることに対して難しさがある。</p> <p>【次年度の方針】 ・課題解決型の授業の実践に努め、児童が見通しや計画の大切さ、改善点に気付く指導に努める。 ・指示を待つのではなく、状況を判断して自ら行動する力を育むための働きかけに努める。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向け「富屋の子：元気・根気・思いやり」を合言葉とし、明るく活気に満ちた学校、地域に根ざし、地域に開かれた学校を目標として教育活動に取り組んでいる。また、富屋地区の特性である恵まれた自然、豊かな歴史と文化、地域の人々との強い絆を基盤とした潤いと活気あふれる学校づくりに取り組み、郷土を愛し、自ら考え進んで学び、時代をたくましく生きる児童の育成を目指してきた。

今年度も学校マネジメント全体アンケートの結果では、肯定的回答率が市を上回る評価項目が全体的に多かった。「児童は思いやりの心をもっている」及び「地域のよさを理解して、様々な人とのふれあいを大切にし、愛情や誇りをもっている」の項目について、調査対象すべての肯定的回答は90%を超えており、特に教職員と地域住民は100%であった。また、「家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」の項目についても、肯定的回答率は90%を超え、市の平均を上回った。これは、地域特性と地域資源を生かした学校づくりを中心とし、学校運営を行っている結果であると考えられる。今後も総合的な学習の時間を中心に、地域と連携した授業や活動を工夫していきたい。一方で、「見通しをもって計画的に進めたり、やり方を改善したりする力」の項目について、保護者の肯定的回答率が74.1%であった。生活の仕方や学習について、自分で課題を見つけ、改善策を考え計画的に取り組む力を育む方法について再考し、学校全体で取り組む必要があるものと考えられる。

○「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」の児童、教職員、地域住民の肯定的回答率は100%と高かった。[晃陽地域学校園教育ビジョン]「未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園」のもと、地域学校園での会議を計画的に行い、学校園で情報を共有し、協力して「あいさつ運動」等の取組を行った成果と思われる。保護者の肯定的回答率は85.2%と市の平均は上回っているものの、他の調査対象と比較して少し低い。5・6年生は地域学校園内の小学校や中学校との交流機会が多く肯定的回答率は高いが、高学年以外の学年について取組の周知が不十分であったと考える。5・6年生の活動であっても、小中一貫の取組として紹介できるよう、目的や内容、様子を保護者に伝えるため、周知方法を工夫していきたい。

7 学校関係者評価

・児童数減少もあり、思うような活動ができない中、地域住民の協力を得ながら工夫した活動が行われている。「ふるさと学習」を中心に地域のことを地域と一緒に学ぶ仕組みが整っている。地域合同運動会である「ファイト！とみや」、生活科や総合的な学習の時間に行われる「ふるさと学習」に加え、家庭科や図工などの教科でも地域住民が指導者として学習支援のため学校へ来る機会も増え、地域と児童との交流が盛んに行われている。今後も地域との交流が継続されるように協力していきたい。

・「目標に向けて努力すること」「自分のよさを実感すること」のポイントが上がっているのはとてもよいこと。
・「英語を使ったコミュニケーション力」と「見通しをもって計画的に進めたり、改善したりする力」に関する項目の肯定的回答率が70%台になっている対象がある。保護者を巻き込んだ活動をさらに取り入れると、子供たちの頑張りが見えてきたり、児童の意欲の向上につながったりするのではないかと。ホームページも充実しているのでさらに情報公開も進めてほしい。

・小中一貫教育の取組の1つである「あいさつ運動」には、今年度57名がボランティアとして参加した。今後も明るい挨拶が交わされるよう継続してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

昨年度との比較においては、全体的に概ね良好との評価をいただくことができた。学校の自己評価や保護者・地域協議会委員の皆様から寄せられたご意見などを真摯に受け止め、次年度の方針について具体的に検討していきたい。

・評価の高い項目に関しては、次年度も継続して指導していくものも多いが、課題のあった項目については具体策を十分に検討し取り組んでいく。特に、本校の特色である「ふれあい学習」において大きな成果を感じることができた。次年度も地域にご協力をいただきながら継続していきたい。

・「英語を使ったコミュニケーション」に関する指導では、1年生から6年生までの発達段階に応じた「富屋小グリーティング」を定着させる。学んだことを授業の始まりや生活の中で生かす場面を意図的に設定することで、コミュニケーションの機会を増やす。「見通しをもって計画的に進めたり、改善したりする力の育成」に関しては、学校として研究がまだまだ進んでいない分野である。目的を達成するために、必要な手順や動きを分解・整理したり、効率的な順序に組み立てて考えたりすることは、プログラミング的思考につながることから、指導者側が児童に身に付けさせたい力を念頭におき、指導法をさらに研究していく必要がある。

・保護者を巻き込んだ教育活動についても、今後工夫する必要がある。学校生活における取組や児童の様子などを学校だよりやホームページで紹介するだけでなく、保護者が直接、学校に来て児童と共に活動したり、参観したりする機会を設定していきたい。また、家庭学習や読書、食育などで行ってきた家庭との連携を、他の分野でも取り入れることができるよう検討していきたい。

○「小中一貫教育・地域学校園」の取組に関しては、「あいさつ運動」の他、篠井小学校や晃陽中学校と行事や活動などで積極的に連携を図っている。さらに、普段の授業や取組で、できることがないかさらに模索していき、そういった活動の様子が保護者に伝わるように周知方法を検討していきたい。